

(学年) 2 学年, (教科・科目) 地理歴史・世界史 A

一斉学習

(単元) 一体化に向かう世界と日本

(本時のねらい)

ルネサンスの意味と、それがイタリアにおこってヨーロッパ各地に拡大したことを具体的な作品に触れながら把握させる。

(ICT 活用方法)

ルネサンス期の芸術の特徴を理解させるために教科書に掲載されていないルネサンス期の芸術作品を電子黒板に映す。従来は世界史で文化史を学習する場合、教科書や資料集の絵画や彫刻の写真資料を活用して、説明することが多いが、その際どうしても視線は資料に向き、授業が散漫になることが多い。電子黒板は、より大きな画像に生徒全員の注意を集中させ、資料を意図的に配列できるという点で有効である。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T 活用方法
導入 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教中心の中世世界の特色について復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問によって、中世ヨーロッパの学習内容を思い出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板を用いて画像を提示する。</li> </ul>
展開 40 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルネサンスの意義をワークシートにそってまとめる。</li> <li>イタリアで最初にルネサンスが起こった理由とイタリアの状況を理解する。</li> <li>イタリアのルネサンスの具体的な展開教材を見ながら美術作品を鑑賞し、授業プリントでまとめる。</li> <li>科学、三大発明にみられるルネサンスの合理主義について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書でルネサンスの意味、意義を説明する。</li> <li>14 世紀のイタリアで最初にルネサンスが起こった理由を発問によって引き出す。</li> <li>ルネサンス期を代表する絵画、彫刻を提示し、視覚的にルネサンス美術の特色を捉えさせる。</li> <li>地動説、ルネサンスの三大発明について説明し、合理主義の精神を理解させるとともに三大発明が近代ヨーロッパの成立に大きく寄与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業支援アプリでワークシートを配布する。</li> <li>電子黒板を用いて画像を提示する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 16世紀以後に起こったイギリス、ネーデルランド、スペインのルネサンスの展開を理解する。</li> </ul>	<p>したことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的な作品を調べ発表し、イタリアルネサンスの広がりを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子黒板を用いて画像を提示する。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルネサンスの開放的な考え方が近代ヨーロッパ世界の成立の端緒となったこと、またその後の宗教改革、絶対主義国家の成立へと繋がっていくことを説明し、次時に関心を持たせる。</li> </ul>	

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

画像等の視覚的情報を用いることで、生徒の理解を促し、興味関心を持たせることができた。

課題としては、授業支援アプリの機能に対する習熟が足りないため、基本的な機能しか使用できなかった点である。また、生徒の1人1台端末の操作に関しても未熟な部分も多いので、生徒と共に学習機会を通じて成長していきたい。当初の計画では、スライドの内容をテキストで確認し、最終的にワークシートでまとめる予定だったが、ICTを活用する鑑賞に時間がかかり、ワークシートの解答確認ができず、次回の振り返りで再度ワークシートのまとめをする展開になったため、自己評価ができなかった。授業展開について見直し、生徒が自己評価できる授業展開へ改善していきたい。1人1台端末の操作については生徒から学ぶことも多く、このような学習機会を重ねて、指導力の向上を目指していきたい。